

日本褥瘡学会で使用する用語の定義・解説

－用語集検討委員会報告5－

日本褥瘡学会 用語集検討委員会

委員長 立花 隆夫

副委員長 青木 和恵

委員 大浦 紀彦・上出 良一・河合 俊宏

白石 弘美・杉元 雅晴・東口 高志

渡邊 成・渡邊千登世

顧問 中條 俊夫

はじめに

これまでに検討してきた89用語(褥瘡会誌9(2):228-231, 2007, 10(2):162-164, 2008, 11(4):554-556, 2009, 12(4):544-546, 2010)は, 検討用語候補2,732語のなかから抽出したものである。また, これら用語と検討委員会発足前に発刊された「局所治療ガイドライン」(2005年)の巻末に載っている用語と重複がみられることから, 結果的に「局所治療ガイドライン」の巻末用語を検討委員会で再検討したことになる。そこで, 2期6年に及ぶ検討委員会の最終年度となる平成22年度(2010年度)の検討用語として, 巻末用語のなかで「褥瘡」以外のいまだ再検討していない用語を選択することにした。

なお, 検討用語の抽出経緯については, 「日本褥瘡学会で使用する用語の定義・解説－用語集検討委員会報告1－」(褥瘡会誌9(2):228-231, 2007)に述べているので参考にされたい。また, ご意見, ご要望については日本褥瘡学会事務局までお寄せいただければ幸いである。

用語の定義・解説

【外用薬】

topical agent

体表面に付着させて局所的に治療効果を得る薬剤である。有効成分である主剤と, それを保持し体表面から吸収させる基剤からなる。主剤として, 副腎皮質ステロイド薬, 非ステロイド系消炎鎮痛薬, 免疫抑制薬, 抗菌薬, 皮膚潰瘍治療薬, 止痒薬, 保湿薬などがある。基剤の種類に応じて油脂性軟膏, 乳剤性軟膏(クリーム), ローション剤, テープ剤, 粉末剤などの剤型がある。外用法には, 塗布, 貼付, 重層法, 密封包帯法(occlusive dressing technique; ODT), 噴霧などがある。

【ドレッシング】

dressing

創傷を被覆する医療材料など, および, これらを用いて創を覆う行為をいう。通常, 創傷治療のための局所環境を整えたり, 創傷を隠したり, 除痛, 感染予防などを目的とする。

【外科的治療】

surgical treatment

褥瘡治療は, 保存的治療と外科的治療に大別され, 後者には外科処置と再建手術がある。外科処置には, 壊死組織除去(デブリードマン), 切開・排膿およびポケット切開術などがある。また, 再建手術には, 縫縮術, 皮弁形成術, 植皮術などがある。

【湿潤環境】

moist environment

皮膚欠損創を覆うことにより, 創の乾燥を防ぎ, 創傷治療に不可欠な細胞やサイトカインなどを含んだ滲出液が適切に維持された状態をいう。

【wet-to-dry ドレッシング法】

wet-to-dry dressing

生理食塩水で適度に湿らせたガーゼを創に充填し, さらにその上を乾ガーゼで覆い, 湿ったガーゼが乾燥したら取り除く方法である。ガーゼが乾燥する過程で細菌や壊死組織を付着させ, これを1日に2~3回行うことによって, デブリードマン効果を期待する。感染, 壊死などを伴った開放創に適応される。

【レーザー】

laser

レーザーは, light amplification stimulation by

emission of radiation の頭文字を組み合わせた合成語である。レーザー素子内での自然光の誘導放出により増幅され、導出されたほぼ同位相の光線で、単色性、指向性、高輝度という特性をもっている。褥瘡治療においては、低反応レベルレーザーが肉芽形成促進などを目的に使用され、高反応レベルレーザーはレーザーメスなどとして利用される。

【非接触型常温療法】

noncontact normothermic wound therapy

創の血行改善などを目的に、Warm Up[®]治療器により、1日数回、発熱体を接触させずに創の温度を38℃に維持する治療法である。褥瘡などに効果があるとされていたが、現在は使用されていない。

【電磁波療法】

electromagnetic wave therapy

電磁波は波長の短いほうからガンマ線、エックス線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波、電波に分けられる。ガンマ線、エックス線は電離放射線と呼ばれ、細胞障害性が特に強い。紫外線、可視光線、マイクロ波は非電離放射線で、生体成分に吸収されると化学反応や熱を生じる。電波は体組織には吸収されない。治療に用いた場合、波長に応じ放射線療法（ガンマ線、エックス線）、紫外線療法、光線療法、温熱療法（赤外線、マイクロ波）と呼ばれる。種々の波長のレーザーを用いるレーザー療法も電磁波療法の1つである。

【wet-to-wet ドレッシング法（生食ガーゼドレッシング法）】

wet-to-wet dressing

生理食塩水で適度に湿らせたガーゼを創に充填し、ガーゼが乾燥する前に交換して、創面の湿潤環境を維持する方法である。閉塞性ドレッシング材が普及する以前より行われていた。

【洗浄圧】

washing pressure, cleansing pressure

洗浄をするときに用いられる圧力である。水圧の効果を利用して洗浄を行う場合の設定値として、褥瘡に関する分野では、psi という単位が用いられてきたが、ヤード・ポンド法によるものであり、国際単位系

では、Pa（パスカル）を用いる。

【近赤外線療法】

near infrared therapy

光のなかで最も生体深達性の高い波長帯である近赤外線を照射する物理療法の1つである。近赤外線は赤外線のなかで可視光線に近い760~2,500 nm（ナノメートル）の波長の電磁波で、創傷治癒の促進を目的とし、局所的な血流増加や皮膚温の上昇をもたらす。

【バイオフィーム】

biofilm

細菌が創面や体表面などに定着すると、菌体やそれから分泌される菌体外多糖体などにより菌体表面を覆う膜が形成され、そのなかに細菌のコミュニティーがつくられることがある。この膜をバイオフィームという。緑膿菌や黄色ブドウ球菌などが代表的なバイオフィーム産生菌であり、食菌作用や抗菌学療法に強い抵抗性を示すことが知られている。

【TIME】

TIME

創面環境調整（wound bed preparation）は、Schultzらによって提唱された慢性創傷に対する治療概念である。wound bed preparationにおいて、排除すべき4項目が提示され、頭文字をとってTIMEと呼んでいる。

- ・ Tissue non-viable or deficient：壊死組織・活性のない組織
- ・ Infection or inflammation：感染または炎症
- ・ Moisture imbalance：湿潤の不均衡
- ・ Edge of wound-non advancing or undermined epidermal margin：創辺縁の表皮進展不良あるいは表皮の巻き込み

これら4項目に対して治療を行うことによって、治療に反応しない慢性創傷が、治療に反応する創に変化し、治癒が始まる。

【いわゆる“ラップ療法”】

so-called “wrap therapy”

非医療機器の非粘着性プラスチックシート（たとえば、食品包装用ラップなど）を用い、体表の創傷を被覆する処置を総称する。